

いにしえ湖南ものがたり

まつばらたなか いせき 松原田中遺跡



国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より

調査がはじまるよ

現在、発掘調査の開始に向けた準備をしています。

「松原田中」遺跡という名称は地名に由来しています。今回の調査地は「田中」という名前のとおり、田んぼのど真ん中にあります。

そんなところに遺跡があるのか？と思うかもしれませんが、試掘調査では弥生時代前期～古墳時代後期（約2500～1500年前）にかけての土器の破片が、ザクザクと出ています。また、建物に使われた柱もみつかり、当時の村の跡があるかもしれません。

今後の発掘調査に胸が高まります！



調査前の様子（北東から）



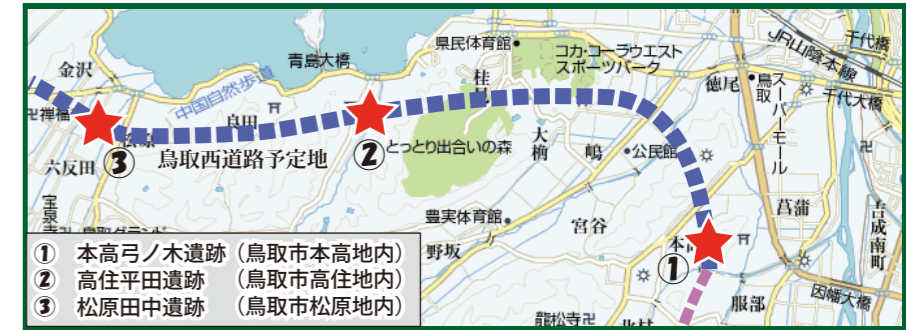
鳥取西道路の

遺跡を掘る！

第14号 2010年6月

土器や陶器といった焼き物、石器、木器に鉄器などの道具。遺跡を掘ると昔の人たちが使っていたいろいろなものが出土します。

ですが、昔のものがすべて土の中に残っているわけではありません。



地中に残るモノ、残らないモノ

遺跡を掘って一番多く出てくるのは土器。

それに比べて木器や鉄器が出てくる量はあまり多くありません。昔の人も土器だけでなく木や鉄の道具を使っていたはずなのに、どうしてこんなに差が出るのでしょうか？

こんな水びたしのところから出てくるんだね。でもじみじみしてる方が腐りにくいなんてふしぎだなあ



一番大きな理由は

「腐ってしまう」から。

土に埋まっても腐らない土器や石器と違い、木器や鉄器は土の中で腐ったり錆びたりして失われてしまいます。これらの遺物が残るには腐りにくい環境が必要です。

現在調査中の本高弓ノ木遺跡ではたくさんの木器が出ていますが、これは**水気の多い土にパックされて木が腐りにくかった**ためなんです。



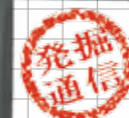
木が腐ってしまう原因の一つが土の中の微生物。水気が多くて空気が少ない環境だと微生物が活動できないから木が腐りにくくなるのね



(財) 鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所

〒680-1133
鳥取市源太12番地
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)

TEL : 0857-51-7553
FAX : 0857-51-7550
メールアドレス :
matsuik@pref.tottori.jp



梅雨に入り蒸し暑い日が増えてきました。調査が進み新しい発見もある本高弓ノ木遺跡や、高住平田遺跡に加えて、今月から調査の準備が始まった松原田中遺跡の情報もお届けします。本格的な発掘調査の開始はもう少し先ですが、どんな発見があるのかお楽しみに！

埋もれた太古の暮らし

もとだかゆみのき いせき

本高弓ノ木遺跡



1600年前の土のう

どとう
土囊...袋に土を詰めて、持ち運びしやすくなったもの
土木工事の現場などでよく使われます

本高弓ノ木遺跡の南側では、古墳時代前期に造られた木製建造物の調査が続いています。その作業の中で、木製建造物の間に積まれた「土のう」がみつかりました。表面にはワラのような植物の茎がそのまま残っており、ひとつひとつの土のうの大きさや形まで観察できます。

粘土を詰めた重い土のうをいくつも積み上げるのは、たいへんな作業だったでしょう。



みつかった土のう
右上は、積み上げられた土のうを色分けして示したもの



さらに驚くべき発見がありました。土のうの表面を丁寧に調査していくと、土のうを横に縛るヒモと、その結び目が発見されたのです。埋まった時に押しつぶされているものの、結び方まではっきりとわかります。ヒモや縄は、長い年月の間に腐ってしまうため、古代におけるヒモや縄の材質や結び方については、意外とわかっていません。水気の多い地中で、約1600年もの間、保存されてきた土のうは、当時の土木工事のようすを伝えるだけでなく、モノを結ぶ方法や技術の謎をヒモ解くカギとなるかもしれません。



土のう表面のヒモと結び目

1300年前の穴ぼこの謎

調査地北側で、東西方向に列をなす多数の穴ぼこを発見しました。一列が50mにも及ぶものもあります。飛鳥時代以降に掘られた穴ぼこは、粘土を採った跡と考えられます。理由は以下の3点です。

- ① わざわざ砂の部分避けて粘土の層を掘っている。
→ 粘土の層を掘らなければならない。
- ② 穴ぼこを埋める土の中に粘土が含まれない。
→ 掘った粘土は全て持ち出されている。
- ③ ほぼ同じ形、大きさで連続して掘られており、規定された単位がある。
→ 同じ量の粘土を効率的に採取している。

粘土は、土器作りだけでなく、住居の土壁や土木工事の時の盛土など、生活の様々な場面で使われていました。これほど掘っているのは、この地で採れる粘土の質が良かったためかもしれません。



右は、穴ぼこの底をアップで撮った写真です。穴を掘った工具の刃先のあとが残っています。

池のほとりに住んだ人々

たかずみひらた いせき

高佳平田遺跡



いよいよ調査開始!

調査を始めるにあたって、ラジコンのヘリコプターを使って空中から遺跡周辺の写真を撮りました。これは、調査前のようすを記録として残すだけでなく、地図からだけでは分からない周りの地形をみるすることができます。人々の生活のあり方は地形と密接に関連しています。そのため、昔の生活の跡である遺跡を調査する上で、地形を知ることは非常に重要なのです。



写真撮影に、いざ出発!



調査区を北上空からみた写真
遺跡がある谷のようすがよくわかります

空中写真から得た地形のようすを念頭に置きながら、作業員の方々が入って調査を始めました。

まず最初の作業として、地面の下がどのような状況になっているのかを把握するための溝を掘り下げています。これを「トレンチ」とよんでいます。

トレンチを掘ることで、どのくらい下に人々が住んでいた跡が残されているのかや、洪水などの自然の影響をどのように受けたのかなどをつかむことができます。

今後、トレンチの数を増やして調査区全体の状況を確認していきます。



トレンチの掘り下げをしているようす
土の中に土器などが入っていないか確かめながら掘り下げています